

## 61. 仙台方言の「えずい」「ひじる」 「たす」の意味

問 仙台方言の「えずい」「ひじる」「たす」というのは、どういう意味ですか。

答 言葉というものは生き物です。人間の生活とともに、時代とともに、そして地域性に依りて絶えず変化し、磨きぬかれ、生滅しつづけます。方言といわれるものの殆どは、今は中央で通用しなくなった言語・発音が、それぞれの地方に伝承・残存してきたものであります。荻生徂徠〔おぎゅう(1)そらい〕の説にも『いにしへの言葉は多く田舎に残れり』とあります。これに対し標準語といわれるものは、わが国の公用文や学校教育や放送などで用いる規範としての言語であると定義されています。そして東京の教養ある中流階級の現代常用語に基づくものとされていますが、東京が首都となり、中流階級が定住することになったのは明治期に入ってからであります。標準語は、それ以前には勿論存在せず、明治の前半に非常に早急に、一般のコミュニケーションや学校教育の必要上、新規な形を整えたものであります。そこで情緒豊かなものの多い方言を、表現力に乏しい平板な標準語に適確に置き換え、完全に理解することは至難であることを、予めおことわりして置きます。

### 1. えずい・いずい・いずえ・えずえ

眼にごみなどの入った違和感、着物が体に合わず窮屈で着具合の悪いことなどを言う時に使います。真山青果も「仙台方言考」の中で、元禄頃の遊里流行語に「あゝえず」というのがあったが、これに「噫不得」(あゝえず(2))と漢字を当てて、その字面から牽強説を立てている者があるのは誤りで、仙台言葉「えずい」を以て解するのが本当であると述べています。

### 2. ひじる・ひずる

「子供をひじるかな」などと使います。多くの場合、自分よりも年下の者や程度の低い者を、からかったり、面白半分になぶったりすることをいいます。「仙台方言考」に、近松物に「ひじる」の語があり、これを「誹(ひ)する」(そしること)とか「ひぞるの義で立腹(3)する、怒る」などと注をしている者があるが、これは誤りで、仙台弁の「ひじる」の意味に取るのが正しいと記しています。

### 3. たす

目上の人に訴える、告げ口などをする意味の子供用語です。「先生きたすから、いいんだお」「たっさえたっさえ、たせばたんざく長くなる」などと使いました。藩政時代、下から上に申すことを「達す」、争い事の場合に吟味を願い出ることを「達しにする」といいました。たっす→たす となったものであろうといわれます。

注(1) 江戸中期の儒者。字は茂脚、号は護園〔けんえん〕、本姓物部氏、物部徂徠を修して物徂徠

という。江戸の人。初め朱子学を学び、後、古文辞学を唱道。門下から大宰春台・服部南郭等を出した。著「弁道」「藝園随筆」「論語徴」「訳文筌蹄」「政談」「太平策」「南留別志〔なるべし〕」「弁名」など。享保13年没、年62〔また63〕。

注(2) 大正14年7月から4回「宮城県人」に連載。単行本として昭和11年刀江書院から出版。また、講談社版「真山青果全集」第15巻（昭和16）、「真山青果全集（新版）」第17巻（昭和50～53）に収録してある。この中で青果は次のように述べている。『方言俗語なりとしてゐる言葉の多くは、奈良朝万葉時代の古語であったり、戦国鎌倉時代の東国語であったり、或は室町時代の女房言葉、慶長宝永の京坂語であったりして、いずれも一度は日本の政治首脳部に普通語として行はれた言語であります。……実は一部の仙台方言考なる書を作り上げるために、三四年以来は雑書涉獵の序に仙台方言の典拠出所を随時に書き集めて、ほぼ七百語近くの記載ができました。その七百語は完全に、過去の日本語が方言とされて仙台地方に保存されていると云ふ証拠になるものです』。

青果の業績の上に語彙研究を一步進めたのは頼原退蔵である。「江戸時代語の研究」で近世語の解釈の方法の一として方言研究との提携を言っているように、この方面の開拓者としての青果の意義は決して軽くない。

注(3) 近松門左衛門の作品。近松は江戸中期の浄瑠璃・歌舞伎脚本作者。本名杉森信盛。平安堂・巢林子〔そうりんし〕などと号した。越前の人。歌舞伎では坂田藤十郎と、浄瑠璃では竹本義太夫と提携した。竹本座の座付作者でもあった。代表作「国姓爺合戦」〔こくせんやかっせん〕「曾根崎心中」「心中天網島」などあり、狂言本20数編、浄瑠璃百数十曲を作り、義理人情の葛藤を題材に人の心の美しさを描いた。享保9年〔1724〕没、72才。

資料 仙台方言考（真山青果）

伊達騒動実録（大槻文彦）

仙台の方言（土井八枝）

言語民俗（藤原 勉、「宮城県史」第20巻の内）

自伝的仙台弁（石川鈴子）

## 62. こけしの語源と素材

問 こけしの語源は何か、またこけしの素材にどのような木が使われるか。

答 まず、「こけし」という名称が、一般的統一的名称となったのは昭和以降のことで、それまでは